

け や き



明日への扉を開く

大仙市教育委員会 教育長 三浦 憲一

大仙の子どもたちが人間としてよりよく生きるための基本を学び、一人一人に豊かな心がはぐくまれることを願って、次世代のために呼びかけたいものです。

少子高齢化、国際化や情報化、社会や経済状況の変化、震災も含め激動の自然環境等、先を見据えて取り組まなければならないことが増大してきております。教育にも子どもたちにも大いに影響があります。大人も子どもも含め、防災教育やいじめ問題等新たな考察や防止策が必要になり、まさに、「生きる力の育成」、「乗り越える力」の育成が重要です。

少なくなっていく貴重な子どもたちを、多様な教育環境の中で、人間力を高め、学校教育の大きな命題である一人一人に学力の保証と成長保証をどのようにしていくのか、学校としても新たな発想と具体策が必要になってきました。

大仙市教育委員会が「共に」「創る」「考える」「開く」をキーワードに「生きて働く知恵を育み、創造力にあふれる人づくり」を教育目標に、重点行動目標を「連携と交流」として学習環境整備を図る中で、各学校の取組が具体的で、特色ある実践が一步一步ステップアップしていることをうれしく思っております。今年度は沖縄県を含め574人の他県の議員の皆さんや教育委員、校長会やPTA、教員などに大仙市教育委員会や市内各学校を訪問していただきました。安定した教育環境の中で、計画や実践がしっかりしていて日常的に各分野と「つながる力」があり、教職員や子どもたちの動きも積極的でよいと評価をいただいております。

前述の課題に対して、地域社会や家庭と絆を結びあって安心できる教育環境と教育の質を保証し、公立学校の信頼をしっかりと確立することが重要であります。

また、子どもたちに豊かな出会いの場と機会を提供することも大事です。育ちをただ見守るのではなく、子どもたちの、「頑張る」「チャレンジする」、あるいは「あきらめない」という意識を大切にしながら、頭も心も体も「鍛える」、そのような出会いを積極的につくり出すということです。人間力の向上には、遠慮気味のこぢんまりとしたものから、時にはおおらかに、時には厳しく、いわばダイナミックに教育に当たるべきだと考えます。

「指導する能力」「受け止める力」「ほめる力」「アドバイスする力」は、学校や家庭でも欠かせません。しかし、一番は「その気にさせる力」が大切な教育力であると考えます。

出会いを大切に、子どもたち一人一人をしっかり把握し、声かけを怠らず、ものを考えるときの見方を指導し、先輩や地域、専門家などの声も聞かれます。そして、一人一人の自分なりの花を咲かせてやりたいものです。

社会に出てから求められる能力は多岐にわたります。教職員は、どんな問題にもアプローチできるトータルな力を子どもに付けてあげなければいけません。そのための総合的な学力の基盤をつくることは学校教育の柱であります。

「心は見えないけれども 心遣いは見える」
「思いは見えないけれども 思いやりは見える」
「やさしい思いが行為になったとき 心は生きる」
詩人 宮澤章二さん

「チャレンジする心 あきらめない心が
行為になったとき 学ぶ力や体力が伸びる
そして未来への希望と実践につながる」

「分かる、できる、楽しい」学び合いの授業をめざして

大仙市立西仙北小学校 教諭 櫻田 武
大仙市立西仙北中学校 教諭 齋藤 佳子

1 はじめに

今年度、西仙北地区では、文部科学省から「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」の指定を受け、小・中連携による児童生徒の学力の課題改善に取り組んできた。

2 研究の概要

【西仙北地区の課題】

- ・内容を正しく読み取り、友達と関わりながら思考判断すること
- ・自分の考えを、表現を工夫して論理的に伝えること
- ・学習に意欲的に取り組み、継続して学びぬくこと

【研究の重点】

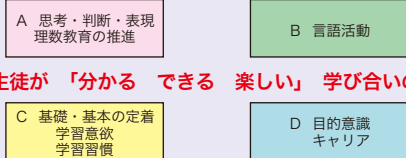
- 各教科等の特質に応じた言語活動の充実に関すること
- 学習評価の改善と指導の充実に関すること
- 全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえた学習指導の充実や、学校課題の改善に関すること

3 小・中連携の取組

(1)算数・数学を核にした「授業改善」「学び合い」

キーワード：「授業改善」「学び合い」

「学び合い」を中心とした授業改善に第一に取り組み、目指す児童生徒を育成

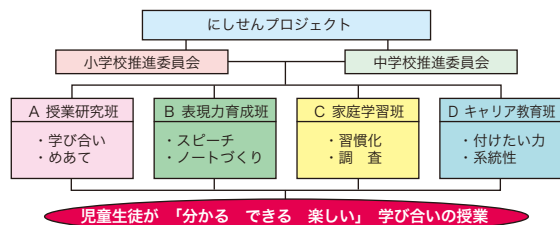


(2)課題解決のために組織で共同実践

ゴールと検証場面・方法を明確に設定

「にしせんプロジェクト」

推進組織



児童生徒が「分かる できる 楽しい」学び合いの授業

※小・中全職員が四つの部会に所属

【小学校の実践】

算数科における「にしせんスタンダード」

45分間における授業デザイン

- ①問題
- ②子どもとつくる「めあて」
- ③自力思考
- ④集団思考
- ⑤子どもとつくる「まとめ」
- ⑥適用問題
- ⑦評価問題
- ⑧振り返り

子どもとつくる「めあて」

- ・前時との違い、子どもの違和感、疑問からつくる。
- ・算数の原理・原則を意識しためあてにする。
- ・「～か？」という文末で、まとめとの整合性を図る。
- ・言葉、図、数直線を意識したアウトプット型も取り入れられる。
- ・帰納、類推、演繹のどれを使うのかを意識する。

「にしせんスタンダード」の集団思考

- ①つなぎタイム1（課題解決）
 - ・第一問の解決（あるいは第二問まで）を図る。
 - ・ペア、トライアングル、グループ、オールクラスで学び合う。
- ②つなぎタイム2（めあて達成）
 - ・まとめづくり（原理・原則発見）からめあて達成を目指す。
 - ・主に一斉指導で言葉をつないでいく。

【中学校の実践】

教科の枠を超えた全教職員による共通実践

共通の視点をもって授業改善

- ・課題解決学習の早い段階で4人グループでの学習を取り入れるとともに、全ての子どもに学びがあるように、より高いレベルの課題を提示する。
(個→グループ→集団→個)
- ・ねらい（スタート）とまとめ（ゴール）の整合性を図る。
- ・「わからないから教えて」と聴くことができる人間関係をつくる。
- ・思考の足跡が見えるようなノート作りをする。

学ぶ意欲を高める方策

- ・各学年に応じて家庭学習の内容や時間を指導し、習慣化を図るとともに、ノート展示等で意欲付けを図る。
- ・体験活動や進路学習等、キャリア教育の充実を図る。

各教科の特性を踏まえた言語活動の充実

- ・教室に基本話型を掲示し、授業の中で根拠を添えて表現させることを重視するとともに、全校集会でのスピーチ等表現する機会を設定する。
- ・各教科で育てたい表現力を明確にし、目指す生徒の姿を具体化した評価の観点を設定する。

4 まとめ

【成果】

- ①児童生徒同士が聴き合い、関わり合う「学び合い」の授業スタイルが定着。
- ②児童生徒の学習意欲が高まり、思考力・表現力が向上。

【課題】

- ①算数・数学における学び合いのスタイルを、他の教科にも波及させていくこと。
- ②年度初めの実態把握から評価項目を設定し、小・中が共通理解を図った上で、具体的に連携を進めていくこと。

「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」事業 [文部科学省]

CAN-DOリストによる連携

大仙市立大曲中学校 教諭 佐藤 文子
協力校：大仙市立大曲西中学校、大曲南中学校

1 はじめに

生徒の英語表現力のレベルアップと、英語教師の指導力向上を目的とする「英語力を強化する指導改善の取組」拠点校の指定を受けた本校英語科は、事業スタートに当たり、域内2中学校の協力も受け全員がチーム大曲としてチャレンジしていくことを確認した。

2 改善に向けた具体的施策

①CAN-DOリスト

の作成

学習指導要領に基づき「卒業までに生徒に身に付けさせたい力」について検討した。今年度は3学年とも「聞いたたり読んだりした英文から4～5語キーワードを選び、それらのキーワードをもとに文章を再現し、自分の生活に関連付けて意見や気持ちを表現できる力」とした。



また、学習到達目標達成のために、各学年の目標を段階的に設定した「曲中CAN-DOリスト」を地域の3中学校で指導する教育専門監を中心に、協力校と連携しながら作成した。

②教員同士の研修

本校では以前から「ぶらり研」として気軽にお互いの授業を見合い、その後英語科内で研修を行い、授業改善につなげている。今年度は小・中・高連携の視点で、大曲小教諭と本校教諭で中学校1年生、本校教諭と大曲高等学校教諭とで3年生の授業を提示し、研究協議会も行うことができた。研修には協力校の英語科教員も都合がつく限り参加していただき、チーム大曲として事業の推進にも結び付いた。



3 まとめ

CAN-DOリストにより、生徒は何を学習するのかを把握することができ、学習に対してより前向きになってきた。生徒の活動を具体的に示すリストの作成は授業改善にもつながっており、「何かの活動をするために必要な練習はやりがいがある」という声が多くの子から聞かれる。

「交流と連携」をキーワードに外国語教育を通しての小・中連携に力を入れている本市であるが、この事業を通して中・高連携も促進されれば幸いである。

中・高での活動が一本の線でつながるこのリストの見直しと活用について、これからも協力校との連携を図りながら研修し、授業改善につなげていきたいと考えている。

小・中連携いきいきスクール事業 [県教育委員会]

学力向上と中1ギャップの解消

大仙市立清水小学校 校長 茂木 讓

1 はじめに

本事業推進に係る臨時講師1名の配置を受け、「子どもたちの学習意欲の向上」「基礎・基本の習得と活用を図る学習の充実」「中学校への円滑な接続と学力向上」の三つをねらいとし、研究実践を進めてきた。

2 研究の概要

(1)教科担任制

①実施教科

国語（5、6年） 理科（4～6年）
社会（3～6年） 体育（1年、3～6年）
音楽（3、4、6年） 家庭（5、6年）

②成果

・教師の得意分野を生かすことで、児童の学習意欲が高められ、学力の向上が図られた。

H24 県学習状況調査（昨年度からの伸び）

現6年生		現5年生	
国語	16.8%上昇	国語	5.9%上昇
社会	3.7%上昇	理科	7.2%上昇
理科	1.2%上昇	社会	13.0%上回る

※現5年生の社会は県平均との比較

・複数の教員で指導することにより、児童理解が深まっている。
・教科や指導内容に系統性をもたせたことで、効果的な指導が可能となっている。

(2)小・中学校での教員の乗り入れ授業

①実施状況

・中学校入学期（4～6月）に週2単位時間の乗り入れ授業を実施した。
・中学校1年生の数学（2学級）をTTで指導した。
・事前に指導者間で学習内容や指導に関する打ち合わせを行った。



②成果

・生徒の学習履歴を踏まえた中学校入学期の授業改善が可能になった。
・生徒のアンケート調査から、半数以上が小学校教員の乗り入れを「とてもよい」「よい」と感じており、生徒が学習内容や学習スタイルについて入学期に感じるギャップが緩和されていることが確認できた。

3 まとめ

学級担任と教科担任の話合いやコミュニケーションが深まり、全ての教師で子どもを育てようとする意識の高まりが感じられた。

また、小・中学校相互の乗り入れ授業を積極的に推進したことで、中仙地区教育研究会が取り組んでいる「9年間のスパンで育てる学び方の指導」が前進したと考えている。本研究の成果と課題を検証しながら、さらに研究を深めていきたい。

環境教育に関する取組を活用した調査研究事業 [文部科学省]

「ホタルの里」から発信

大仙市立内小友小学校 教諭 今野 紀子

今年度から、大曲西地区三校で環境教育に関する取組がスタートした。本校では、「『ホタルの里』で『食と生物』から『ふるさとの環境を考える』」をテーマに、様々な活動を行った。



1 西地区で取り組んだ活動

- 「花火の里」クリーンアップ
- オープンスクール（4年生以上参加）
※午後からは南地区と合同で環境教育の講演会に参加

2 全校で取り組んだ活動

- 環境集会（大曲西中学校との連携）
- 米作り体験（J A秋田おばこととの連携）
- わくどき町たんけん（全校縦割り活動）
- エコクッキング（「環境の達人」事業とタイアップ）

3 学年で取り組んだ活動【4年生の例】

一年間を通して地域のビオトープでの活動を行い、そこにホタルを呼ぶために自分たちに何ができるのかを考えた。11月に行われた西地区オープンスクールでは、「わたしたちのビオトープ～ホタルの里から発信～」と題して、ビオトープを守るためにゴミ拾いをすることや、ゴミのポイ捨てをしないことを提案した。「余目いきいき会議協議会」との連携を通して、ビオトープの保全活動への意欲が高まった。



ふるさと生活体験推進事業 [市教育委員会]

農家民宿宿泊体験

大仙市立太田南小学校 教諭 大河 悟

平成24年度「農山漁村におけるふるさと生活体験推進事業」に、6年生24名が1泊2日で参加し、次のような体験を行った。

1 実施した体験活動

- 1日目
花火工場見学
昼食：おにぎり作り体験
農業体験：収穫、選別（班別）
夕食：収穫した野菜でのカレー作り



- 2日目
農業体験：スイカ収穫体験（全員）
昼食：そば打ち体験

2 児童の様子と成果

当日は四軒の農家民宿（角間川、内小友、飯田）に分かれて、主に農業体験を通じた民宿の方々とのふれあいを楽しんだ。

民宿のみなさんは、家族のように子どもたちを迎え入れ、積極的に体験活動を行わせてくださった。参加児童は、学校での宿泊行事では味わうことのできない人との温かい関わりにより、主体的に人と関わろうとする姿勢の大切さを学ぶことができた。



キャリア教育

交流・連携で体験の充実を

大仙市立太田東小学校 教諭 安部 浩行

太田地域では、小・小連携による様々な交流活動を行っている。特に今年度は、職場体験活動を中心に据えた三校合同の修学旅行が初めて実施された。

1 職場体験活動の場所と内容

- ①仙台朝市商店街：野菜、鮮魚などの販売体験
- ②ホテルモントレ仙台
：ベッドメイク、客室清掃体験
- ③弁当のこばやし：弁当作り体験
- ④三越仙台店：施設見学と体験
- ⑤鍾崎：笹かま、七夕飾り作り体験

2 児童の様子から

朝市の鮮魚店、八百屋の前に立った子どもたちの小聲で恥ずかしそうな「いらっしやい」が、やがて互いに競い合うような大きな声に変わり、ついには値切ろうとするお客の相手をするまでに……。

人にもまれ、切磋琢磨する経験が少なく、自分の考えを人前でしっかりと表現することが苦手な子どもたち。そんな彼らにとって、初めての職場体験は、今の自分と将来の自分の生き方を考えさせてくれるよい機会になった。



学校支援地域本部事業 [文部科学省]

グローバルなESDこそ地域から

大仙市立大曲南中学校 教頭 後藤 宏

本校ではESD（持続発展教育）を「今の人も将来の人もよりよい生活ができるように、地球全体のことを考えて行動できる生徒の育成を目指すこと」と捉え、エネルギー・国際理解・食育の三つの分野で活動してきた。中でも学校支援地域本部事業を活用し、「健康」「地産地消」「エコ」をキーワードに実践したのが食育である。



ご自身も農家であるコーディネーターに協力者の選出や耕地の確保を依頼し、1年生の体験学習（耕起、種蒔き、水の管理、収穫）を支援していただいた。収穫後は、市食生活改善推進協議会大曲支部の皆さんによる「健康と食事」の授業を行った。これが緑のカーテンづくり（“Let's GO や！”プロジェクト）につながっていく。2年生は、「あきた地球環境会議」の指導の下、環境に配慮して調理全般を考える「省エネクッキング～ゴーヤ編～」に取り組んだ。



小・中・高等学校及び地域と連携した外国語活動

活動の輪を広げて
「エイ・英・ゴー!」

大仙市立大曲小学校 教諭 武藤 浩紀

本校では、地域の教育力と教育環境を生かし、外国語を用いて生き生きとコミュニケーションできる児童の育成を目指している。

平成21年度より外国語活動において、県立大曲高等学校英語科との連携により、高校生と小学生の交流を進めている。また、外国語に関わりの深い地域ボランティアをサポーターとして活用してきた。さらに、昨年度からは重点単元において、大曲中学校英語教諭とのTTに取り組んだ。

大曲高等学校英語科の生徒との交流

5・6年生共、年間四つの単元で交流を実施した。高校生がゲームをリードしたり、活動のデモンストレーション役を担ったりした。



地域ボランティア・中学校英語教諭との連携

外国の文化の理解やコミュニケーション活動の重点的な単元で実施した。指導者側のチーム力が豊かな活動につながった。

今後も中学校・高等学校・地域へと広がった活動をさらに深め、伝え合い、分かり合える楽しさを味わうことができる外国語活動を実践していきたい。



地域と育む美術教育

「神岡こどものまなざし展」

大仙市立平和中学校 教諭 田中 真二郎

平成23年度から、神岡地域に暮らす人々のための美術展を開催してきた。乳幼児から小学生、中学生及び美術を愛好する地域作家の作品を一堂に展示するものである。

これまで平和中学校では、地域に関連した題材に取り組んできた。例えば、ご当地マスコットキャラクターの制作、オリジナルドリンクの開発、創作和菓子などである。どれも地域の学習材(人・もの・こと)を生かし、デザインの考え方を学びながら制作されたものである。これらの作品を地域へと発信し、子どもたちの学びやふるさとへの思いを神岡に住む人たちみんなで共有したいという思いからだ。

子どものまなざしの先を見ることによって、大人の私たちが今何をしなければいけないのかを考えたり、子どもと大人の視点がクロスオーバーすることによって、地域の未来が見えてきたりするような、そんな機会をつくりたいと考えた。「地域限定の美術展」という小さな取組だが、美術的な視点だけではなく、その地域がもつ可能性や希望というものが見えてくる機会になった。



理科支援員等派遣事業 [文部科学省]

実験のおもしろさが豊かな学びに

大仙市立豊岡小学校 教諭 佐々木 通

本校では、「理科好きな子どもを育てたい」という思いから「理科支援員等派遣事業」を活用し、教材研究や実験等の準備、授業での子どもたちへの支援まで、担任と理科支援員とが共通理解を図りながら協同で進めてきた。

その取組によって、子どもたちは確実に実験のおもしろさを味わい、そのおもしろさが豊かな学びに結び付いたことを実感している。

例えば、5年生で取り上げた「リズム振り子」の学習では、振り子を作るために必要な条件を子どもたちが意欲的に見付けていくことが重要になる。単元の導入部では、「曲に振り子の動きを合わせるために、自由思考の時間を十分にとりたい」という担任の思いと、理科支援員の豊富な経験による選曲や材料の準備によって、子どもたちは、自分の好きな曲のリズムに合わせた振り子を作ることができた。

振り子の運動の規則性を体で感じながら捉えることができた授業であった。



部活動の取組 (マーチング全国大会三年連続金賞)

感動できる心を育てる

大仙市立大曲中学校 教諭 鈴木 幸栄



「自分のしてきたことの大きさが感動の大きさを決める」。音楽室に掲げてある言葉の一つである。教師になって以来、常に『感動体験』という言葉を意識しながら指導してきた。

現3年生は1年生の時、沖縄から人事交流で本校に赴任した神里先生と出会ったことが強く心に残っていた。そんな彼らが今年決めたマーチングのテーマは「琉球絵巻」。神里先生との出会いも、生徒たちにとって感動体験の一つだったに違いない。

そして、臨んだ全国大会。最優秀団体発表の瞬間、生徒たちは歓声をあげて喜び、セレモニーの間は、涙を流しながら赤絨毯上の代表生徒を見守っていた。閉会式後の生徒たちはみな、達成感に満ちたよい表情をしていた。お互いを讃え合い、衣装等を作ってくださった保護者へ感謝の言葉を述べる。最後に私にも感謝の言葉を述べてくれた。生徒、保護者、学校が一体となって最高の感動体験ができた。

人との出会いを大切に、周囲への感謝を忘れない生徒たち。確実に豊かな心が育まれていることを感じる瞬間であった。この感動体験が、今後生徒たちの「生きる力」につながることを願っている。



コロナブスの卵わくわくサイエンス事業 [市教育委員会]

科学を身近に感じよう!

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 島田 智

本事業は、教職員対象の「観察・実験授業スキルアップ出前研修」と、中学生対象の「中学生首都圏大学（科学博物館）・総合研究所派遣」の二つを柱とし、「理数教育の充実」を図ることをねらいとしている。

1 観察・実験授業スキルアップ出前研修

「児童生徒が観察・実験を通して科学の疑問について感じ、考え、実感できる授業づくり」を目指し、千田文和先生を講師として、指導力の向上を図る研修を実施した。



全17回の出前研修には延べ250名、夏の教職員研究会教科指導研修（8月7日実施、大曲小学校会場）には、32名の教員が参加した。

小学校では「もののとけ方」や「薬品の正しい取扱い方法」などの基礎的な内容から、「放射線について」といった今日的課題にいたるまで、教師や児童生徒の疑問に対応した研修が行われた。

中学校では「円筒モーターの作成と授業展開」「イオンの移動」といった、今年度から学習指導要領に入った内容の研修が行われた。参加者からは、「すぐに授業に役立つ有意義な研修であった」という感想が多く寄せられた。

2 大仙市中学生首都圏大学・総合研究所派遣

生徒一人一人の報告書は大仙市教育委員会ホームページで

今年度は2回の派遣を行った。8月2日（木）と3日（金）の日本未来科学館と理化学研究所には12名、12月25日（火）と26日（水）の産業技術総合研究所と千葉大学医学部には6名を派遣した。



世界最先端の研究施設で、日本の科学技術や研究レベルの高さを直接肌で感じ取ることができた生徒たち。特に理化学研究所では、113番元素が目前にある超伝導加速器を使ってつい最近発見されたことを知り、興奮を隠せないようだった。

生徒からは、「最先端科学技術を活用することにより、世の中を変えていく可能性をもっていることに大変興味をもちました。」「科学者になる夢に一歩ずつ近づけるようがんばりたいです。」などの感想が出された。



この研修が、参加生徒の科学への興味・関心と、進路への意欲を喚起してくれればと期待している。また、参加者の中から、将来優秀な科学者が育ち、世界の科学を牽引することを願っている。

中学生サミット [市教育委員会]

REVO「+α」

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 島田 智

大仙市中学生サミットは、「こころふれあう さわやか大仙事業」の一環として行われ、平成20年度からは「REVOプロジェクト」を継続してきた。

6月、中仙中、豊成中、仙北中、太田中の代表が事務局校会議を開催し、「REVOプロジェクトの継続」と「新たな活動+α」を今年度の方針とした。

一つ目の「+α」は、大船渡市立赤崎中学校に図書を贈る「本でつながるプロジェクト」に決定した。各校の呼びかけで集まった、312冊の図書を、10月10日にサミットメンバー22名が赤崎中にメッセージと共に手渡した。その際、神岡小学校の児童が作成したメッセージ付きのしおり約150枚も添えた。



赤崎中を訪問した生徒の感想から

赤崎中のみなさんは、私たち以上に笑顔あふれる表情をしていて、逆に元気と勇気もらった。私たちは同じ東北の中学生として、被災された方々の心を癒してあげなければならないと思った。

もう一つの「+α」は、いじめ撲滅に関する取組である。いじめ問題が大きくクローズアップされたことを重く受け、事務局校が「いじめ撲滅のための提言」を提案し、サミット全体会で決議した。

いじめ撲滅のための提言から

私たち大仙市の中学校からは、決していじめを出さないように取り組んでいきませんか。

ここにいる各校の生徒会が中心となって絶対にいじめをしない学校をつくっていきましょうませんか。

中学生サミットは、小学生の参加も年々増え、活動も充実してきている。来年度の事務局校は、平和中、西仙北中、協和中、南外中である。中学生の自主的な取組が、小学生や地域を巻き込んで広がり、大きな成果となって実を結ぶことを願っている。



「大仙っ子 読書の日」に係る取組事例

**ホントノキズナ☆協和小
2012読書推進運動**

大仙市立協和小学校 教諭 阿部 洋子

本校では、学校、図書ボランティア、読書サポーター、学校支援地域本部、協和図書館が連携して子どもたちの読書活動を支援している。読書週間中は、連携のよさを生かした読書推進運動を展開した。

「ホントノキズナ☆ブックフェア」では、全校児童が読書記録を記入した。また、本への関心を高め、教科の学習をさらに深めるために、読書サポーターとの連携で、図書室前に「教科書に載っている本のコーナー」を作った。



「大仙っ子読書の日」には、先生たちによるお話の会や、図書ボランティアによるビデオ放送でのお話の会を開いた。

さらに、読書集会も開催し、読書クイズや人気本、好きな本などの紹介、また、図書委員会と図書ボランティア、読書サポーターのコラボレーションによるお話紹介などを行った。

普段から図書ボランティアや読書サポーターの方々に熱心に図書整備や読み語りをしていただき、本校の読書環境は着実に充実してきている。特に、読書週間中は連携を生かした読書活動に全校体制で取り組むことで、児童の読書意欲を高めることができた。

大仙市PTA連合会

確かな歩みとなって

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 加藤 勝則

大仙市PTA連合会が発足して5年、今年は節目の年であった。国際教養大学の故中嶋嶺雄学長をお招きしての講演会、継続して環境教育に取り組んできた大曲南地区の藤木小学校で行われた研修会、協和小学校の学校支援コーディネーターを講師に迎えての研修会と充実した研修を行うことができた。さらに、母親委員会が発足したことで、連合会の組織力が強化されたことも大きい。

また、あいさつ運動やノーメディアデーなど連合会から発案された取組は、各学校において工夫を凝らした特色ある営みとなって定着している。中学生サミットへの協力、大仙っ子読書の日の実施なども大きな成果である。

今後も会員の創意を生かして、社会情勢に応じた斬新なアイデアを出し合い、実のある連合会にしていきたいものである。



小・中学校、地域が一体となつてのあいさつ運動

ノーメディアデー取組標語 (太田中保護者)
テレビ消し うちの娘 我が家の AKB!?

こころのプロジェクト「夢の教室」 [市教育委員会]

**「スポーツ」「音楽」「絵画」へと
どんどん“夢”がひろがるプロジェクト**

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 佐藤 信夫

様々な分野の第一線で活躍している方々を「夢の先生」としてお招きし、ご自身の体験から夢をもつことのすばらしさを学ぶ「こころのプロジェクト」も3年目を迎えた。今年度で、全ての小学校で開催することができ、子どもたちの笑顔と夢がますます広がってきたことを感じる。

小学校こころのプロジェクト「夢の教室」

<スポーツ・サッカー> 田中 誠氏

5月8日(火) 豊川小・清水小・東大曲小

<スポーツ・柔道> 泉 浩氏

5月9日(水) 角間川小・藤木小・内小友小
大川西根小



<音楽・チェロ> 羽川 真介氏

12月6日(木) 中仙小・高梨小・横堀小

12月7日(金) 南外小・神岡小

<絵画> 小山内愛美氏

7月3日(火) 協和小・西仙北小

7月17日(火) 大曲小・太田東小
太田南小・太田北小



小学生が本物に触れることで、一つのことに情熱をもって取り組み、夢へ向かって生きることの大切さを“体感”できた喜びの声、たくさん届けられた。

中学校こころのプロジェクト「夢の教室」

<音楽・声楽> 小松 英典氏

5月29日(火) 西仙北中・協和中



*平成25年度の予定
会場(ドンパル)
5/28 中仙中・仙北中
5/29 豊成中・太田中

本市出身の小松氏による、超一流の音楽会。大曲中学校時代の合唱との出会いから、ドイツで活躍するに至るまでの氏の夢へ向かう道のり。ホール内に響き渡った「ふるさと」の先輩の“声”と“思い”は、生徒たちの心と共鳴していた。

大仙市立中学校生徒海外派遣事業 [市教育委員会]

外から眺めてみる

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 高橋 規子

生徒一人一人の報告書は大仙市教育委員会ホームページで

毎年この事業の中で生徒が最も楽しみにしているのが、3泊4日のファームステイである。どっぷりとオーストラリアの生活に浸り、初めて体験する様々なことに驚きと感動の4日間を過ごしてくる。

「芝刈り機を運転して芝を刈ったよ!」「乳搾りをさせてもらった!」「ファミリーと一緒に作ったお菓子です。先生も食べて!」どの子の表情も輝いている。自分の気持ちを言葉やジェスチャーで一生懸命伝える経験や、ファミリーと一緒に初めてのことにチャレンジする経験が「積極性」と「自信」につながっているような気がする。

さらに、このような経験のフィルターを通して、ふるさとや自分自身を見つめ直すことで、「気づき」や「学び」が生まれていることも感じられる。

様々な人たちとの出会いや数多くの体験が、ふるさとのために、また、自分自身のために生きると願っている。



第2回教職員研究集会 全体会フォーラム

「災害時における学校の役割」

～災害時、学校、教職員は何かできるか、そして何をすべきか～

大仙市教育委員会 教育研究所長 須田 百合子

第2回教職員研究集会のテーマは「防災」であった。昨年の東日本大震災後に、各学校、教職員の防災に対する意識は確実に変わった。災害に直面したとき、学校、教職員は何かできるのか、そして何をすべきなのかを真剣に考えた。

このフォーラムでは、八幡平市立安代中学校長（前大槌中学校長）の小野永喜氏から実体験に基づく講話をいただいた。また、実際の災害の様子も見せていただき、参加者は言葉を失った。そして、学校再開までの教員の真摯な姿に感銘を受けた。

その後、学校として被災地支援に取り組んだ平和中学校長今井聡氏と高梨小学校長須田綾子氏、小野氏との鼎談が行われた。

自校の教育活動の一環として被災地支援に取り組んでいる両校長からは、子どもたちに命の尊さを教え、たくましく生き抜く心を育てたいという熱い思いが伝わってきた。災害時における学校の役割という視点で考える機会になった。



はいさい・めんそーれ沖縄・大仙子ども交流事業 [市教育委員会]
(ごんにちは) (ようこそ)

国内での異文化交流

(糸満市教育委員会「学びの体験事業」の受け入れ)

大仙市教育委員会 教育研究所長 須田 百合子

10月15日(月)から17日(水)までの3日間、糸満市教育委員会の「学びの体験事業」が実施され、本市教育委員会はその際の交流活動を「はいさい・めんそーれ沖縄・大仙子ども交流事業」で支援した。



糸満市からは、小学生20名、中学生16名に教員等13名が訪問し、花館小学校と仙北中学校で授業を体験するなど交流を深めた。

1日目は、歓迎の集会に始まり、通常の授業を実施し、2日目の放課後に、仙北地域の餅の館で「餅つき交流会」を行った。餅の食べ方にも文化の違いがあり、餅をほおぼりながら会話も弾んでいた。

体験学習という形での県外児童生徒との交流は、今回が初めてであった。糸満市の子どもたちは、本市の児童生徒について「授業に真剣に臨んでいる」「礼儀正しい」などと感想を口にしていった。花館小と仙北中の子どもたちにとっても、糸満市の子どもたちの積極性など、学ぶことの多い有意義な3日間になった。



平成24年度 教育研究所のあゆみ

1 大仙市教職員研究集会

- ①第1回大仙市教職員研究集会 (H24.4.18)
 - 教育長講話 □特色ある取組発表
- ②第2回大仙市教職員研究集会 (H24.8.7)
 - 職務別等研修会(午前)
 - 生徒指導主事研修会
 - 特別支援教育支援充実研修会
 - 教科研修会(算数・数学、理科)
 - 全体会(午後)
 - 中学校生徒発表(被災地支援、交流活動)
 - 教諭発表(被災地派遣)
 - フォーラム(講話と鼎談)

2 学校訪問

- ①教育委員等訪問…市教育委員会や各学校の教育方針等の共通理解
- ②教育長等訪問…学力向上、「総合的な学力」の育成、生徒指導上の課題への対応等について状況を把握し、改善の手立てなどを確認

3 学力向上

- 全国や県の学習状況調査の分析結果を提供
- 学力向上推進委員会の活動として、国や県の学習状況調査分析結果に基づいたフォローアップシート等の作成と提供

発行 大仙市教育研究所

〒014-8601 秋田県大仙市大曲上栄町2-16
TEL 0187-63-9400 FAX 0187-63-9401
E-mail om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp